

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひろた
(ユニット名)	ユニットB(3階)
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号
記入者名 (管理者)	平川雅幸
記入日	平成 20年 11月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	「感謝の心を忘れずに、やさしい手と確かな手で共に歩みます」を理念に、母体の村上医院や併設のデイサービス、デイケア、居宅介護支援センター、高齢者支援センターとの連携をとりながら、地域に根ざした施設作りを目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	ホーム入口の目のつく場所に、施設の理念と職員一人ひとりの年度目標(顔写真入)を掲げており、それをいつでも念頭に置きながら日々の業務に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族や地域の方々に施設へ気軽に足を運んで頂けるよう、グループホーム納涼祭、法人全体の夏祭りなどに招待したり、町内の清掃や中学校行事への参加や街中へ外出する機会を持ち、施設を理解してもらえよう努力している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	併設のデイサービス、デイケア、病院等へ入居者と外出した際に出会う近隣の方々への挨拶を大切にしている。また、理容、美容、ヤクルト、パン屋等の業者に対しても、利用を通して気軽に来訪して頂けるようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	夏祭りなど催し物の開催にあたり、地域の方々に招待したり、保育園児や自治会の方々によるステージショーなどで交流を深めている。また地域活動などの呼びかけにも積極的な姿勢で参加している。		今後も地域の中の一員として垣根を越えたお付き合いができるように、具体的な行動でわかりやすくアピールしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会や趣味活動、ボランティアをされている方々を施設へ迎え入れ、交流を機に良い相互関係をもたらしている。また、施設で開催する介護教室の他、依頼があれば地域の各団体への講演も随時行っている。		グループホームの機能や役割を地域に還元できるように更に工夫をしながら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	あらためて自身を振り返り、自分自身の評価やホーム全体の評価を行うことが、ホームの質の向上や入居者の方々に沿ったホーム作りを目指すために大変意義あるものと考えており、評価の内容を基に具体的な改善に取り組んでいる。		現状に甘んじることなく、評価の内容を基に具体的な改善に取り組むことの積み重ねが、施設全体のレベルアップにつながっている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし、事業所と地域、入居者、ご家族等との意見交換ができる貴重な場となっている。また、入居者の要望や提案も取り入れる方向で話し合い、より良く生活ができるように前向きに取り組んでいる。		施設側と会議を構成する各委員の皆様にとって、会議自体が負担とならないよう開催時期や内容等を事前に吟味しながら効果的に取り組んでいけるよう努力する。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡協議会への参加や、管理者が窓口となり市との連携を図りながら、日々の申し送りや会議を通して情報を共有し現場へ反映させている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の研修や認知症介護実務研修に参加し、その報告書等を通して全職員が学ぶこともあるが、現在対象となるケースがないことから、知識としてはまだ浅いものがある。		権利擁護に関する研修の機会を作り知識を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	制度の内容等を学ぶ機会は少ないが、虐待については職員全員が徹底して防止に努めている。		身体的虐待や言葉による虐待など精神的な面も視野に入れながら、今後も具体的内容の理解のために学ぶ機会を持ち、引き続き職員間で防止の徹底に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者及び家族の立場に立ち、細かい事柄でも納得されるまで十分な説明を行い理解をして頂いている。解約される際はその後のフォローも含め同意の下で対応をさせて頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議のメンバーとして2・3階より各1名選出し、意見、要望等を聞く機会を設けている他、個別のケアプラン作成前のアセスメントにも必ず取り入れ、生活面に反映させるよう努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「こもれび通信」を発行し、紙面を通してホームの活動報告等を紹介している。金銭管理は個人出納帳を月末に家族に確認して頂き署名をもらっている。健康状態については、家族の来訪時や必要に応じて電話で速やかに連絡するように努めている。</p>		<p>家族への連絡が遅れ事後報告になってしまったケースもあり、その際貴重な意見やアドバイスを頂きながら、その都度体制の見直し・確認・実行へとつなげているが、今後も真摯な姿勢で対応に努めていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時や意見箱、カンファレンス、運営推進会議等を通してご意見を伺い、不満・苦情があった場合には保留の状態を避け、即座に管理者を含めて話し合い、その回答及び改善に向けた動きを具体的に示すように努めている。</p>		<p>家族からの意見で現場が気づかされることがあり、常に点検と検証をしながら安心と安全なサービスの提供に反映させていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各フロア毎のスタッフ会議、全体での会議と毎月開催し、スタッフの意見は運営者・管理者に聞いてもらいアドバイスをもらう。また個人的な意見にも耳を傾け熱心に聴き対応、対策を講じてもらっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>自施設内はもとより、併設事業所の職員とも協同して臨機応変に柔軟に対応できるよう、法人全体で調整しながら勤務にあたっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要に応じて経営者が個別に面談をして相談を聞いたり、異動に関しても各ユニットの状況を踏まえながら各職員の意見等を基に施設全体のバランスを考慮して対応をしている。その際入居者への説明も十分に行われ、入居者が動揺することのないように配慮されている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演や研修への参加を積極的に勤めており、参加後には資料を添付した報告書を提出している。併設の事業所からの報告書も合わせて、お互いに回覧をすることで職員全員が新しい情報の共有ができています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会議や各研修等に、管理者だけでなく職員も積極的に参加し、現場に反映させる努力をしている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場へ頻繁に足を運んでもらい、職員への言葉かけをして頂くことで、上司であっても相談しやすい環境を作ってもらっている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に現場の状況を把握しながら、職員が働きやすい環境作りに心がけてもらっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の状態やそれを取り巻く周囲の状況等を十分に踏まえながら、ケアマネジャーとも連携して直接話を持つ機会を大切にしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪時や電話で、または自宅訪問の際にこれまでの経過、現在の介護状況、思いや今後の希望等を受け止め、現状を確認している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の立場に立って相談内容を親身に受け止め、アドバイスや具体的な支援策を速やかに提示できるよう、普段から併設の事業所との連携を密にとっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のペースを大事にし、その場の雰囲気によりゆとりと馴染んでいただけるよう対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩たちから私たちが学ぶことは沢山あり、支えたり支えられたりのお互いの関係を大切にしている。その方の立場にたって心の通じ合える関係で楽しく生活ができるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時以外でも、電話や郵便等の手段を使い、ご本人の生活の様子等がわかるよう、タイムリーに情報を提供している。その都度、家族からのアドバイス、要望や意見等も頂きながら、ご本人の生活を共に支え合っていく関係作りを常に心がけている。		写真や記録を効果的に活用することで、細かい情報でも伝えていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との絆は何よりも代えがたいものであるということを念頭に置き、それぞれのご家族の立場や思いを尊重し、理解しながら良い関係の下で支援させて頂きたいと職員全員が常に思っており努力をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者に対しては気軽に訪問して頂けるようおもてなしの気持ちを大切にしている。また、以前住んでいた場所や馴染みの人たちとの関係が途切れないよう、電話でお話をしたり、来訪を依頼したりと、常に話題に取り入れるようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を崩してしまわないように、トラブルになりそうな時には、職員が仲介に入り未然に防ぐ努力をしている。また、難聴の方に対してはコミュニケーションがとりにくいことで他者との関係が途絶えないように、職員が同様に対応に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他の施設に移られた方に直接お会いしてお話をしたり、ご家族との継続的なかわりを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の主体者としての立場を十分に尊重し、本人の希望や意向に沿えるよう努力している。画一化しないように本人及び家族の意向等も随時確認をしている。本人からの確認が困難な場合は、これまでの経過も踏まえながら客観的かつ総合的見地から検討するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前には新しい生活がスムーズに運べるように、本人や家族からの情報に加え、それまでの生活状況をケアマネジャーやサービス事業所等と連携して把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録、業務日誌、個人記録、申し送りやカンファレンスを通して一人ひとりの生活リズムを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず各入居者の担当者が中心となってアセスメントを行い、他の職員からの「ケア会議事前検討用紙」に記載された内容と、本人及び家族の意見や要望をもとにサービス計画担当者がケア会議をまとめる形で介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの有効期間に基づきサービス提供を行っているが、本人の状態に応じて随時話し合いを行い、必要な見直し・確認をして実行をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を個別に用意し、普段の暮らしの様子を写真や記録で残したり、日々の様子を業務日誌に記している。またADLについては「生活チェック表」に記しながら情報を共有し、介護の実践や計画の見直しなどに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス、通所リハビリ、支援センター、村上医院との有機的な連携をとりながら柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人全体の夏祭りでは保育園児らとの交流を図り、毎年中学校の職場体験学習の受入では入居者と学生との関係作りの絶好の機会となり、その後のボランティア育成にもつながっている。また、毎月地域の老人会やボランティア団体が来訪して下さり交流の機会が年々充実してきている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月に一度の訪問理容・美容サービスや、併設のサービス事業所の他、他のサービス事業所(デイサービス)が利用できるよう支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者を介して包括支援センターとの連携の他、運営推進会議の委員としても毎回会議でアドバイス等を頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院困難な入居者においては、送迎サービスにより通院可能となったり、直接かかりつけ医の往診をしてもらえるなどの体制が整っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携体制をとっている村上医院へ職員が情報提供した上で、院長の判断により必要に応じて専門医療機関を受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	村上医院との意思疎通や申し送りもスムーズにできており、協同しながら入居者の健康管理に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当施設と家族、村上医院、入院先の医療機関と常に連携して情報の共有を図りながら、退院後の受入がスムーズに運ぶよう対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した方への介護支援方針について、状態変化に応じて家族やかかりつけ医を交えて話し合いの機会を作っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設側として可能な限り支援を行うが、状況によって困難が予想される場合は、医療連携の医師の指示を仰ぎながら、家族とも十分検討した上で方針を決めていく。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴う本人の不安感を少しでも緩和でき、新しい環境で安心して生活できるように、事前に関係者らと共に情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が入居者一人ひとりの人格を重んじた接遇を心がけており、個人情報の取り扱いには注意を払っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員主導にならないように、日頃から生活の場面毎に各入居者が自己決定がしやすいような働きかけを行い、納得できる暮らしの提供を心がけている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、その場・その時に個別の希望に沿えない場合もある。	その場・その時に応じきれない場合は、入居者主体を前提に職員間で話し合い、別の日にでも希望に沿えるよう支援をしていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活のメリハリをつけながら、日常生活はもとより、季節や行事に合わせて身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるような支援を行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから下ごしらえ、味見、下膳までの食維持の一連の流れを入居者と共に行い、同じテーブルで職員も食事をし、家族的な雰囲気を作り出している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	苦手な食材が献立にある場合には、代替のものを用意したり、食べやすい工夫をして毎回提供させて頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日常生活チェック表の記入により、排泄パターンを把握し、また、トイレの汚染がないか小まめにチェックをすることで、誰もが気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた入浴の提供の他、入浴嫌いの方には入浴チェック表を参考にしながら、その方の気分やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて、自室や共有スペースで面々が気兼ねなく休める時間を大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回の割合で、外部からの訪問や行事を催すことで他者との交流を楽しんで頂いたり、日課の中にも趣味や特技を活かしたレクリエーション、家事等を日常的に取り入れることで張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援させて頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数であるが、希望に応じて金銭を所持されることで安心感を持てる方もいる。本人の希望時には、買物などの金銭使用ができるように努めている。		買物などで金銭を使用した際は、本人の金銭管理能力に応じて、スタッフ間で収支状況を確実に把握し、家族にもその内訳を随時報告していくように今後も取り組んでいきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望及びその日の健康状態に沿って、散歩や買物を実施できるように体制を整えるよう努めている。		個別の希望に沿った外出支援には、職員の体制も考慮しながら安全に対応が可能かどうか、無理な支援ではないか等の見極めをしながら今後も取り組んでいく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中で知り得た情報を基に計画を立て、個別や少人数、または併設のデイ利用者らと合同で希望の場所へ出かけられる機会を作れるようになった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で近況報告をしたり、家族との手紙のやりとりなど、必要に応じて職員が代弁、代筆をしながら入居者にわかりやすいように伝達をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	おもてなしの心を持って居室へお茶や椅子を用意し、本人とゆっくり過ごして頂けるように配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでおり、研修や事例集などの情報を通して理解に努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には日中は施錠せず、死角になる場所にはセンサー(市販のもの)を設置し、必ずフロアーにはスタッフが見守り、全体の動きを把握できるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、職員の交替時間などを目安に所在の把握と安全確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものと感じたら、本人の同意の下でスタッフ側で預るようにし、本人からの訴えなど必要に応じて本人へ渡し、その方の状態で管理できるのかできないかを見極めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書の事例を通して、速やかに安全のための具体的な対策を講じ、当施設のみならず法人全体でこれらを共有することで職員一人ひとりが知識を身につけ、リスク管理体制につながっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	当施設在籍の看護師を中心として、緊急時の対応、応急手当の勉強会を開き、急変や事故発生時に備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者を通して自治会や老人会に働きかけてもらい、地域住民の理解・協力のもと、月1回のホーム内の消防訓練や年2回の合同消防訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	あらゆるリスクに対して家族に説明をし、協力を得ながら入居者が抑圧を感じない生活を送れるよう対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活チェック表を活用しながら、1日の本人の状態を把握することが出、個人生活シートにより、1ヶ月間の状態変化を把握することで、異変の早期発見、早期対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の一覧表をファイルにまとめ服薬のマニュアルに沿って確実に服用できる様に支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	メニューに関しては、入居者の希望を取り入れながら、合わせて栄養士の指導、助言を基に作成をその方に応じた食事形態の工夫により、偏りのない栄養摂取ができ、また日課として午前中にテレビ体操を行い、身体を動かす働きかけ等にも取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアのして頂き、その方の状態の応じて支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、量の調整や形状をペースト状や刻みに変更するなど個別に対応を行っている。また、1日の摂取状況を観て偏りが見られるときには代替食を用意して食べて頂くなどの支援をしている。口渇感が乏しい方に対しては食事摂取と合わせて飲水量の確認を欠かさないようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・入居者共に日頃から手洗いやうがい・消毒を徹底し、感染予防には注意を払っている。保健所主催の勉強会や公報の回覧・掲示を通して全職員に周知徹底をさせている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味(消費)期限を細かくチェックし、生ものはいつ調理するのか日付を記入すると共に、鮮度を落とさないように保管にも注意を払っている。食中毒の研修会の参加や職員会議を通して、食材の取り扱いや保管、調理器具の管理の徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはデイ利用者がプランターで育てた季節の花が飾られ、誰もが自由にくつろげるベンチを設置。地域の方々の待合場所としても時々利用して頂いているようだ。ウエルカムボードは毎月職員が製作し温かい雰囲気を引き出していると思う。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには入居者の作品や季節の花が飾られ、毎月季節の詩の下肢を掲示することで、それを自然に口ずさむ方や、ハーモニカで演奏したりと、季節感のある空間が自然にできている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座敷で横になって休んだり、音楽を聴いたり、居間のソファで居眠りをしたりテレビを観たり、談話にふけったりと共有の空間の中に幾つもの過ごし方があり、それぞれが自分に合った居心地の良い場所を見つけてマイペースに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が日常使用されていた愛用品や仏壇など、その方にとって大切なものを持ってきて頂き、少しでも居心地の良い生活空間を提供できるよう家族にも協力して頂きながら対応している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の様子やフロアと各居室に設置している温度計も目安にしながら、室温管理に注意を払っている。またエアコンを使用する際も適宜換気を実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は段差部を極力押さえ、トイレは同フロアに4ヶ所設置。手摺も必要に応じて増設したり、テーブルやソファの位置も各入居者の動線と安全面も考慮しながら臨機応変に配置を考えている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	無理をせずにできる範囲で安心して暮らして頂けるよう、職員は入居者の自立支援を意識しながら寄り添う形で対応をするように心がけている。。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のベンチに座り、街の景色を眺めながらお茶を楽しみ、窓越しに見る小森川の風景や遠くに聞こえるJRの列車の音、吹抜けの窓を開ければ1階のデイケアで賑わう利用者の笑い声など、日常の当たり前の光景を生活の中に工夫しながら取り入れている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様と職員のかかわりの中で、冗談を言って大笑いをしたり、一緒に歌を唄ったり、一緒に料理の下ごしらえをしたり…。私たち職員は、このようなごく普通の当たり前の生活を大切にしながら、一人ひとりの入居者様と日々関わることができることに心から感謝しています。これからも笑顔があふれる嬉しい「ひろた」での暮らしを皆様に満喫して頂けるよう、職員一同取り組んで参ります。